

幾代会観察会(2023年10月)のまとめ

****幾代会2023年10月の観察会****

- 日時：10月1日(日)
- 集合場所：日向和田駅 9時25分
- 観察場所：天神入林道～梅の公園
- ルート：日向和田駅～梅の公園～天神入林道～梅の公園～梅郷市民センター～日向和田駅
- ポイント：サラシナショウマと秋の花及び吉野梅郷梅まつりについて

20230320

幾代会

- 日時：10月1日(日)
- 集合場所：日向和田駅
- 集合時間：9時25分
- 観察場所：天神入林道・梅の公園
- ポイント：サラシナショウマと秋の花及び吉野梅郷梅まつりについて
- ルート：日向和田駅～梅の公園～天神入林道～梅の公園～梅郷市民センター～日向和田駅
- 持ち物：・飲み物・ルーペ等の観察用具

●お 昼 : 弁当

●参加者: 宇津木さん、梅田さん、大村さん、岡さん、鹿子生さん、斎藤さん(初)、林さん、深川さん、山下さん、渡辺(健司)さん、渡辺(弓子)さんと越前の 12 名

●下見 : 9月15日(金) 3名で実施済み

◆10月の植物観察会のポイント 2 点



フウセンカズラ

●フウセンカズラの袋の戦略

フウセンカズラがピーマンやほうずきやモクゲンジと同じように種が産毛の生えた空洞の袋でおおわれていることの利点。

- 1, 風圧を受けて転がって種を散布しやすい
- 2, 軽くて、水に浮いて流され遠くに運ばれやすい。
- 3, 種子が遠い内部に有るので虫から種が攻撃されにくい

●引っ付き虫のイロイロ

秋に野山を歩くと植物の実や種子が衣服にびっしりと付きます。植物は種子を遠くに運んでもらうために人間や動物に色々な方法でくっつきます。

くっつく方法と観察会で見た植物種は

1. 果実の棘の先端がくるんと丸まったかぎ爪型。

キンミズヒキ・ヌスビトハギ・ミズヒキ・ヒメキンミズヒキ

2. 果実が細長く先端が何本かのハサミのように成っていて突き刺す刺毛型

コセンダングサ・コシロノセンダングサ・アメリカセンダングサ:チカラシバ

3. ねばねばとした粘液が出て衣服に着く粘液型

コメナモミ・ノブキ・チヂミザサ

4. 挟み込んでクリップのように成ってくっつくクリップ型 イノコヅチ

◆散策路の植物あれこれ

3ヶ月ぶりの例会は私の地元、日向和田駅に参加者12名が集合。

朝の7時前後に思いも寄らぬ雨が降り出し、あらまあと慌てましたが集合時には雨が上がり観察会が実施出来てほっ。

今月から幾代会で購入出来たハンズフリー拡声器を使用して説明。大きな声を出さなくても参加者全員に聞こえるので便利便利。

10月は会員のOさんに説明した植物を列挙して貰えたので、それを元にまとめます。

●クズ 向和田駅から神代橋に向かう信号の崖から茎にびっしりと毛の生えた本種が垂れ下がる

●ケヤキ 神代橋の上から目の高さで7月も確認した本種の実の付き方を観察

●ニラ(花) 畑の脇に白い6弁のニラの花が生えていたので、全員で花を見ながら気が付いたことをデスクッション。

●梅 神代橋通りより奥側の梅林で再植栽された10株前後の梅の木が背丈以上に成長し、放射状に枝を延び延びと伸ばしていた。元気に大きく成りました。

●フウセンカズラ(実) 半野生化したフウセンカズラの実を説明。



●ワイルドオーツ(和名「偽小判草」、別名セイヨウコバンソウ等) 神代橋通りで梅の木が植えてある植え込みに小判草のようなイネ科の植物が実を付けて垂れ下がっていたのでスマホのレンズで調べた。便利ですね。

●ゴヨウマツ 吉野街道を通過し人家の入り口のシンボルツリー。良く見るアカマツやクロマツに比べ葉身が短く葉は5本一組で盆栽に利用される。

●キンモクセイ どこからとなくこの秋、初の甘い香りが漂い「アッあそこに咲いている」と声が飛び交い優雅な気持ち。

●カシワ(樹木) 梅の公園手前の駐車場の奥にこんもりと茂った木「何の木でしょうね」と言ったら、熱心な参加者はすかさず

飛んで行って確認。立派な柏の木でした。

●カラスウリ(実) ツルに絡まり既にオレンジの実がぶら下がっていた。何時もの年よりちょっと実が小さいように思いますが、生育場所の影響か夏の猛暑の影響かは？



スズメウリ

●ウスギモクセイ 梅の公園手前の人家の入り口の両側にキンモクセイとウスギモクセイが植栽、金と銀でめでたいですね。これまで何度も通っている道ですが、皆と歩けたので気がつき良かった！

●ハナタデ タデ科の野草で良く似たイヌタデに比べ、花がまばらにつき花穂がイヌタデより長く茎はホククする。

●エノコログサ いわゆる猫じゃらしと言われる野草、秋に成ると尾っぽが目立つ。

●アキノエノコログサ エノコログサに比べ花穂が長くたれ下がる。

キンエノコロ 花穂に生える毛が金色に輝く

●八重サンショウバラ 梅の公園を出て天神入林道に向かう人家で秋咲きのピンクの花が咲く。

●コムラサキ(実) こちらは畑の隅に植栽。枝が垂れ下がりがびっしりと紫色の実を付ける。

●青じそ 空き地にこぼれ種で出てきた青ジソの実の付き方を観察。食べられるとか、どのように利用しているかを皆で楽しい談義

●イヌコウジュ キツネノマゴとの違いを見て貰うためにまずシソ科のイヌコウジュの種の付き方が青ジソと似ていることを確認。

●シュウカイドウ 雄花と雌花が有ることやそれぞれの花の位置や種の形を観察。初参加のSさんから本種を食べたとのこと、調べたら食用になることが解り良かったです。

●キツネノマゴ 花の形や大きさがイヌコウジュに似ていますが種の付き方が違います。

●スズメウリ(花と実) 「これなあに」と持って来



ヤブマメ



て貰った。本種はウリ科の烏瓜ほどは見かけませんが普通に自生している。緑の実が熟して白くなると食用に成ります。

●ヤブマメ 山野に普通に生える一年草。旗弁は紫色だが他の花弁は白色で長さが1, 5 cm ぐらいに伸び出た花は何とも愛らしい。

●ヌスビトハギ(花と実) 種の形が地下足袋をはいた盗人がつま先で歩く足跡に似ているのが由来。種は面で衣服に着くので取るのが大変。「今の人は地下足袋が解らないですよ」との声。植物の名前は今では使われなくなった道具等の面白い命名が有ります。

●ミズヒキ 幸運にも種と花の両方が見られ、由来の水引きの紅白を確認できた。下から小花を見ると上半分が赤色で下半分が白色。

●ハグロソウ 小さな花が多い野原で本種の紫色の二枚の花弁は目立つ「少しも黒くないけどな」との声。葉の緑が濃いのが由来です。

●ノブキ(花と実) フキのような葉から花茎が伸び、白い小さな花と車輪状の種を観察。

●チヂミザサ コブナグサと本種の葉の付き方と花穂の違いを説明。

●コブナグサ 葉が茎を抱いて花穂はススキのように出る。

●チカラシバ 天神入林道の道の中央の荒れた場所にブラシのような黒っぽい穂を付けて叢生

●アメリカセンダングサ 葉の色が濃く艶が有る。黄色い頭花の周りの総苞が目立つ。

●コメナモミ 50cぐらいの草丈であまり見かけない草がス〜と立っていた。すかさず「これなあに」との声。茎の毛が上向きに寝ているので類似のメナモミと区別。

●ノササゲ(花と実) 崖の上から2mぐらいのツルが垂れ下がり、黄色いマメ科の花を付けていた。

●キヨスミトゴケ 「サルオガセ？」との声。コチラは低山の湿った場所に生える良く似たキヨスミトゴ



ヤマハッカ



サラシナショウマ

ケです。

●**アブラチャン(実)** 雌雄異株で吉野川の川岸で両方を確認出来た

●**サンショウ(実)** こちらも雌雄異株ですが赤い実を付けていた雌木、またまたどのように生活に生かすかのお話。

●**ヤマハッカ** 崖側の草むらに薄紫色の本種が今年もひよろひよろと生えていた

●**ヒメキンミズヒキ(花と実)** 類似のキンミズヒキより小ぶりで黄色い花弁も細く雄蕊の数も少ない。

●**サラシナショウマ** 10月のポイントの野草ですが、吉野川の岸に真っ白なブラシ状の花穂を付けて咲いていて、良かったデス。鳥居をくぐった奥の草地はまだまだ固い蕾でした。

●**フユイチゴ(未熟な実)** 陽が余り当たらない湿った崖側で本種が小さな実をのぞかせていた。類似のミヤマフユイチゴは葉先が尖る。

●**マツカゼソウ** 草刈りをされたので草丈が20cmぐらいと低く4弁の白い小花が咲く。葉の腺点から異臭を放つ。

●**ツリフネソウ** 天神入林道を引き返した、湿った空き地に紫色の穂をぶら下げた本種が株立ちになっていた。梅の公園では見られない。

●**ミゾソバ** 金平糖のようなピンクの花を持って来て「これは何ですか？」タデ科のミゾソバ「ソバの花に似てるわね」別名として花の形から金平糖草、葉の形から牛の額

●**クサギ(実)** 5-6m遠方にクサギが青い実を

付け始めていた

●**ミツバ** こぼれ種で増えた三つ葉があちらこちらで生えていた。

●**ツリバナ(未熟な実)** 山の神様の石碑の手前で赤くなり始めた丸い果実の先端が割れずにぶらさがっていた。楠玉のように開き種が顔を出すのはもうすぐですね。

●**キンミズヒキ(実)** 10月ポイントの引っ付き虫、種は衣服について遠くに運ばれる。小さいけれど黄色い花弁の花は目立つ。

●**ゲンノショウコ** 天神入林道で生えていた本種の花の色は余り見かけない紅紫色だったが、こちらは良く見かける白色の花(マップに写真掲載)

●**コシロノセンダングサ** 天神入林道で見かけたセンダングサは殆どがアメリカセンダングサ。こちらは花の周りに白い舌状花が目立つ 小白の梅檀草。



●**ユウガギク** 最初に咲き出すノギクで薄紫色の花が四方八方に飛び出したように咲く。

●**キューイ(実)** 人家に作られた棚から大きく成り始めたキューイの実がぶら下がる。紅葉の秋の前に嬉しい収穫の秋です。

●**イヌタデ** 粒状の紅紫色の花をお赤飯にみたて赤まんまと言っておままごとに使うタデ科の一年草。ハナタデより穂先の長さが短くびっしりと花を付ける。

●**ヒガンバナ** 今年の本種は花が遅く少な目で茎が長い特徴がある。

●**サフラン** 本種を見そびれましたがスパイスに使う赤い雌蕊が目立てば本種で無ければイヌサフラン。

●**カラスノゴマ** 5弁の黄色い花は下向きに咲くのであまり目立たないが反り返った額はおしゃれ。

●**テンナンショウ(緑の実)** 70c前後の立派な草丈で先端に出来始めた緑の実が顔をのぞかせていた。

●**イタドリ(実)**

●**ノブドウ(未熟な実)** ブドウのような葉に5mmから1cmぐらいの青い実が付いていた。カラフルな色に変わるのはこれからです。

●**ムカゴイラクサ(実)** 「これなあ〜に」の声に見てみるとイラクサ科の目立たない野草。葉柄の根基に丸いムカゴが付くムカゴイラクサです。ヤマノイモのムカゴのように食べられません。



林道でたつぷりと植物観察をしたのち、お昼は梅の公園で食べました。食後は参加者から戴いた色々なおやつも食べて満足。何時もながらご馳走様でした〜。午後からは梅の公園で10月に入っているのに見ごろのヒガンバナが見れました。

それにしても山の斜面に咲くヒガンバナの絶景は梅の公園ならではです。

3月の梅の季節は花見客でにぎわいますが秋の園内は山並みも楽しみながら静かにゆっくりと散策が出来てお得な気分です。

午後からは予約してあった梅郷市民センターの会議室で、来年3月の梅まつりの散策ガイドの説明をしました。



半日の散策とはいえちょっと話しすぎたでしょうか。

参加人数が多かったので色々な意見が飛び交い、お陰様で楽しい観察会ができました。

来月はセンブリとリンドウを求めて吉野山園地を植物散策しますので、揃ってご参加ください。

越前記